

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	このすけアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●毎月、季節を感じて頂ける様なイベント行事や、毎月の外出で四季折々の花の鑑賞や地域の催しなどへ出かけ、気分転換を図っています。●毎日、散歩に出かけ地域とのかかわり図っています。●毎日の食事作りのほか、誕生日会やフードセラピーでおやつ作りも楽しんでいただいています。●身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会主催のグループワークや勉強会などで身体拘束廃止の意識を高めています。●防災面では避難訓練、消火訓練、通報訓練の他、グループワークや消防署による講話なども実施しています。●お鍋や焼肉、カラオケパーティ、外食などをご家族様にも参加して頂き楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員は利用者の笑顔と安心、安全を励みとして、職員同士がユニットを越えて協力し合い、利用者本位のケアが実現されている。利用者が閉鎖的にならないよう、行事や外出の機会を多くし、季節のおやつ作りや鍋フェアなど、利用者楽しんでいただける取り組みがなされている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「担当者からことあるごとに電話連絡をくださるので安心して頂いています。利用者が病気になる時など、速やかに対応してくれるのでありがたい」、「家族の希望にはできるだけ対応してくれる」、「健康面(精神面)への心使いがとてもある」などのコメントが寄せられ、職員の心のこもった対応に高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、終末期に向けて、事業所がどうあるべきか、家族は何を望まれるかを家族と改めて確認し合い、運営推進会議などでも議論されたこと、また、想定別の避難訓練などについても、地域住民の協力を得た防災体制が構築されていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で生活。安心・安全な環境」を理念に掲げ、自立支援に向けたケアや安心・安全な環境整備に努め、住み慣れた地域で笑顔の絶えない生活を送れるよう支援している。	新センター長を迎え、理念の確認がなされ、「初心に戻って笑顔」の標語のもとケアが実践され、職員から「利用者の笑顔が励み」との声が聞かれている。また、理念の安心・安全な環境への取り組みから、同じミスを繰り返さないよう指導もなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の様々な行事へ参加するなど、積極的に地域との交流を図っている。又、地域合同の避難訓練を行うなど地域の一員としての役割を担っている。	地域からは「そよ風があるから安心」とのイメージが出来上がり、近所への買い物などを通して住民とつきあい、地域との相互交流が図られている。また、地域のイベントなどには優先的に招待されるなど、地域の一員として受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れをしたり、地域の中学、高校からの職場体験実習の受け入れを行い、認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議で具体的な議題にそった話し合いを行い、情報交換や助言を頂いている。また、運営推進会議での意見は職員全員が周知徹底するように心がけている。	開催予定が事前に決められ、定期的に開催され、地域住民の方からは、地域のことや防災のことなどの情報提供をいただいている。また、家族からも、身近に関心のある話題が提供され話し合われるなど、事業所のサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の事業所連絡協議会に参加し地域の情報を得ている。又、事業所活動報告や介護サービスについての報告や相談等、良好な関係作りに取り組んでいる。	市担当者とは利用者についての相談や事故報告、空室情報など、折に触れて連携が図られている。また、市主催の事業所連絡協議会に参加することで、市からの介護福祉情報が得られるなど、事業所の運営にも反映されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会が中心となり、勉強会や個別チェックなどにより意識を高めている。また、利用者が外出するときには付き添い、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	事業所内の委員会が中心となり、身体拘束廃止の標語を作成したり、職員のチェック項目を設けて、お互いが気を付けることを確認し合っている。センター長による評価・指導も行われ、考え方の標準化を図るべく取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員主催の勉強会などを実施するほか、外部の研修にも参加し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースでは、管理者、計画作成担当者が対応し必要な支援を行う。社内外の研修で必要な知識を身につけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際には丁寧な説明を心がけ、納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から話を聞き取り、生活に反映させている。また、家族から運営推進会議や家族会などでご意見やご要望を伺い、頂いたご意見やご要望は職員へ周知徹底している。	「〇〇へ行きたい」、「誕生会には△△が食べたい」など利用者からの要望が出され、可能なことにはすぐ応えられている。家族とは家族会や面会時で、また、帰り際の立ち話なども重視され、気軽に意見が話せるよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会的活動により意見を取り入れ業務改善・ケアの質の改善につなげられるようにしている。	委員会活動が行われ、職員それぞれが責任を持って取り組み、業務改善への意見・提案が積極的になされている。職員同士や管理者とのコミュニケーションも図られ、利用者のケアについてだけでなく、就業上のことで話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行ない、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員主催の定例勉強会を毎月行っている他、支社内の意見交換会も行っている。また、外部の研修を受講できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内の意見交換会に参加しサービスの向上に努めている。事業者連絡会に参加し同業者と交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談のあった時は、必ずご本人に会い心身の状況やご本人の思い、不安に思っている事を伺い、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を理解し、家族が困っている事や不安に思っている事などをゆっくり伺い、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談には、可能な限り十何な対応をし、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、職員と利用者の信頼関係が築ける様、努めている。一緒にテーブルを囲み食事をすることで暮らしを共にするという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや要望をお聞きするとともに、日頃の様子やご本人の思い、職員の考えを細かく伝えていくことで、支援の方向性を一致させ、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、今まで使用していた物を持参して頂く事で、落ち着いて生活できる環境づくりに努めている。また、馴染みの人が訪ねてきたりと、これまでの関係が継続できるよう支援している。	入居前に居住されていた地域の自治会の方や同級生、友人も訪ねて来られ、家族と連絡を取りながら交流いただいている。また、併設のサービス利用の知人とのつきあいの継続にも支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となり支援している。また、2ユニットの利点を生かし、ユニットを超えて関わり合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族や他の事業所の相談にのって支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子を観察し、気持ちや体調の変化に早く気付けるよう努めている。	新聞のチラシ、旅行のパンフレットなどをきっかけにして、好きなことや食べたいものなどの意向の把握に努められている。表情、仕草や生活歴から「ピンのコーラが好き」という利用者の思いを聴きだし、対応された事例も見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始する際にご本人、家族から聞き取る他、利用後もご本人、家族とのコミュニケーションの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況などをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調やADLを把握し、ご本人、ご家族の要望を聞きながら、課題やケアのあり方をカンファレンスや申し送りで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活状況や家族の意向などをケアカンファレンスで確認し、課題を見つけて介護計画に反映されている。具体的に清掃の手伝いやカレンダーめくりなどの目標が掲げられ、プランに沿った支援記録表も作成されるなど、現場への周知も図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄などの身体状況、その日の様子や言動などを個々のファイルに記録し、介護計画に沿った援助を心がけている。また、個々の記録から介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応している。また、医学的処置が必要なケースでは併設のディサービス、ショートステイなどのナースに協力を得て柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで民生委員と意見を交換をしたり、防災訓練に地域住民や消防団が参加するなど、安全で楽しく暮らせる支援をしている。また、定期的にボランティアが来所し地域との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時は普段の健康状態を記録したものを情報提供し、医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医へ家族同伴で通院されるときは、前もって事業所より医療機関に利用者の現況が伝えられ、受診後の結果の確認がなされている。家族の負担軽減につながると同時に適切な医療サービスを受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員に相談し、利用者の健康管理、状況に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ソーシャルワーカー、ご家族と情報交換しながら回復状況を把握し速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を伺いながら、かかりつけ医と相談し、状況の変化に応じた支援を行なっている。職員間で利用者の状況を共有しチームでの支援に取り組んでいる。	終末期に向けて、事業所がどうあるべきか、利用者・家族は何を望まれるのかを、改めて個別に話し合いが行われている。運営推進会議や家族会でも議題に取り上げられ、医療連携時の課題も整理されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急手当や蘇生方法などの普通救命講習を定期的を受講し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自主防災会に参加し、地域との協力体制を築いている。また、あらゆる災害に備えて防災セミナーを開催し全職員が防災に対する意識を高めている。	埼玉県災害学習センターによる防災についての講演が企画され、職員、利用者、家族、近隣住民が参加され、意見交換や事業所内の安全点検が行われている。地域住民との合同避難訓練も実施され、夜間の行動や車いすでの運び方などの技術訓練もされている。	災害対策への取り組みレベルは高く、近隣住民との協力体制も築かれていることから、今後職員や自治会の協力者が変わっても、これまでの対策が継続されていくよう努められることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社としてプライバシーマークを取得し、全職員がプライバシーに対しての意識を高め、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応をしている。	入浴や排泄時、利用者に羞恥心を感じさせないように取り組まれ、尊厳の確保にも努められている。個人情報情報の保管にも十分な配慮がなされるなど、全職員がプライバシー遵守に高い意識を持ってケアにあたられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情で読み取れるよう配慮したり利用者に合わせて声掛けを心がけ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人一人のペースを大切に、体調や気持ちに配慮して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、家族が来所された際に好みを伺ったりしながらおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は季節に合わせた献立とし、食事が楽しみになる様工夫している。食事の買い出しから、調理まで一緒に行い同じテーブルで一緒に食事をしている。	食事にはきめ細かな配慮がなされ、主菜のセレクトが可能であったり、小鉢バイキングや鍋7エアなどが企画され、食べることを楽しんでいただいている。栄養管理もなされる一方で、利用者の好みに合わせてパンバイキングなども取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録し、職員が共有して一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人に応じた見守りや援助を行っている。就寝前には口腔ケア後、義歯洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を使用して一人一人の排泄パターン、習慣などを把握してトイレ誘導をし、自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を目指した自立支援に取り組みられている。入院時オムツ使用だった利用者にも、夜間は職員二人でトイレ誘導し、日中はタイミングの良い声かけをすることで、自立することができた事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせ便通を良くする食物の購入や食材の調理に工夫をしている。また、運動への働きかけで自然排便できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外毎日、午後4時から行っている。季節により柚子湯、しょうぶ湯など、入浴を楽しんで頂ける工夫をしている。	利用者の生活リズムに配慮し、職員の業務の見直しを図り、夕方に入浴時間を設けるよう努められている。入浴を拒否される利用者にも、気長に対応し、清拭や足浴などの支援が行われ、清潔の保持にも努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え、夜は良眠できるよう支援している。また、個々の状態に合わせて休息の時間を作るなどの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて処方箋を整理し、また変更があった時は申し送りにて周知徹底をしている。服薬時は職員間で確認し合い、服薬後もきちんと内服できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かして仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。また、季節の外出先や、イベントの企画を利用者に相談しながら楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他、食材や日用品の買い物に車で出掛けるなど利用者の意向に合わせた支援を行なっている。季節に応じた外出先の希望を伺い決定したり、地域の資源を活かし外出支援をしている。	利用者個々の能力に合わせて、外気浴、散歩や買い物など、日常的に外出支援が行われている。季節の花見、市役所のお雛様見学などは恒例となっており、利用者の好みや希望にも応えられている。	利用者の外出支援には様々な工夫が図られており、外気浴や散歩など日常的な外出の姿を写真に収め、家族に送付するなどして、事業所が取り組まれている活動を家族にアピールする取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクの一環として買い物ツアーを企画し、一人一人の希望や能力に応じて、本人が好きな物を選び、ご自分で支払うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は事務所で話せるようになっていた。また、年賀状や手紙を出すための支援を行っていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾や植物を配置したり、季節に合った食材を使用したお菓子作りをしたりしている。利用者が安心して暮らすための環境作りを大切にしている。	通路には陽が差し込み、くつろげるスペースが設けられ、利用者が家族と談笑される姿も見られる。華やかな装飾をすることもなく、利用者が落ち着いて生活できる環境作りに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、フロア内のソファ、畳などで自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の好みや馴染の物を活かして心地よく安全に過ごせるよう工夫している。	利用者個々に合わせた居室作りがなされ、鏡台、筆筒などの家具のほか、カーテンやベッドカバーなど好みのものが使われ、居心地の良い生活空間となっている。ベッドか布団かを選ぶことができ、これまでの習慣やライフスタイルが大切にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。		

(別紙4(2))

事業所名:このすケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日:平成 26年 3月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今まで地域と連携を図りながら行ってきた避難訓練などが自治会の役員が代わったり職員の異動等でできなくなるかもしれない。	これまでの災害対策が継続して行なえる。	・年間を通した避難訓練等の計画を自治会へも発信する。 ・職員の誰もが対応できる様、参加の機会を設ける。	12ヶ月
2	49	日々どの様に生活しているか家族に伝えきれていない。	日頃の様子が家族に正確に伝わる。	・外出レクリエーションの写真だけでなく、日常の生活の様子を写真に残し送付する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。